

# 観光交通論 II

科目ナンバリング MAN-210  
選択必修 2単位

## 1. 授業の概要(ねらい)

鉄道事業者の観光に向けた取り組みを検討し、現状と今後の課題について研究します。また海外のTGV、ICEなど高速鉄道などについても紹介します。本講義では後半から日本経済の活性化を目指して、実際に地方の赤字会社再生策を考えます。レポートテーマは自分の出身地道県の地方鉄道・バス会社の赤字を減らす増収策(観光振興など)を提言する。東京都・大阪府等大都市圏出身の人は東北など地方の赤字会社を選んでください。演習が主となります。

## 2. 授業の到達目標

- ① 鉄道事業者の事例を検討し、観光という視点から逆境にある地方鉄道の再生・活性化策を提案できる。
- ② 学生が20年後、赤字鉄道会社の社長・鉄道本部長・観光部長になったと仮想して、地元の現状の深刻さ、人口減少の影響を真摯な態度で受け止め、若さで夢のあるレポートが作成できる。

## 3. 成績評価の方法および基準

プレテスト(10%)、中間レポート(20%)、期末レポート(40%)、発表(20%)、授業参加態度(10%)の配分によって総合的に評価する。

## 4. 教科書・参考文献

教科書

テキストはなし 適宜資料を配布する

参考文献

- 佐藤信之著 ①『鉄道会社の経営』 中央公論新社  
新将命著 ②『新将命の社長の教科書 LEADERSHIP 徳のある社長になるための方程式』 致知出版社  
齋藤嘉則著 ③『問題解決プロフェッショナル』新版 ダイヤモンド社  
櫻井寛編著 ④『世界鉄道の旅』 小学館

## 5. 準備学修の内容

観光交通論IIの期末レポートは要求字数(原稿A4、5枚)が多いので、取り組む赤字鉄道会社を早めに選定し、事前の情報収集とレポートの各章ごとの執筆を早めに進めること。

レポート作成に備えて企業再生に成功した事例から経営理念、夢を語るところ、先見性、真の原因発見と解決策、協力者たちを調べておくこと。この授業に備えて、問題解決法を予習しておくこと。

## 6. その他履修上の注意事項

受講学生の上限を48名と制限し、受講生がその人数を1越えている場合は、前期観光交通論Iの授業参加態度、意欲、成績、プレテスト結果から受講の可否を総合的に判断する。観光交通論IとIIを連続して履修が望ましい。春期の産業・企業研究I(問題解決法)の履修が役立つのでこちらも履修を勧めます。東日本大震災後の地元、出身地域のニュースは興味を持って、注目一読し、積極的な態度で講義に参加してほしい。なお欠席が5回を超えた学生は成績評価の対象外です。期末レポート・発表は授業外にテーマ決定、調査、分析、対策、発表準備にかなり時間をかけないと出来ません。北海道・東北、関東、北陸信越・中部、近畿、中国・四国、九州等地域毎に集まりグループ討議を実施、情報交換をします。学修時間が取れそうもない人、出席が10回以上確保出来ないと予測される学生&コミュニケーションに積極的でない学生は履修を勧めません。

## 7. 授業内容

【第1回】 イントロダクション、本講義の全体像、評価の詳細等説明 プレテスト(問題解決法等について)

【第2回】 交通の歴史と将来(観光交通論Iの振り返り)

【第3回】 鉄道事業者の観光取り組み1(小田急電鉄)

【第4回】 鉄道事業者の観光取り組み2(南海電鉄)

【第5回】 鉄道事業者の観光取り組み3(JR九州) 海外高速鉄道(フランスTGV編)

【第6回】 中小鉄道の取組み事例(1)津軽鉄道 海外高速鉄道(ドイツICE編)

【第7回】 中間のまとめ(中間レポート提出) 海外高速鉄道(英国ユーロスター編)

【第8回】 レポートテーマの選定・調査 海外高速鉄道(スウェーデンX2000他編)

【第9回】 テーマ会社の概要・収支状況調査 海外豪華列車(オリエント急行他)

【第10回】 情報整理・赤字会社の問題点は何か 国内豪華列車(ななつ星 in 九州)

【第11回】 赤字会社の目標設定・分析 国内豪華列車(TRAIN SUITE 四季島)

【第12回】 赤字会社の分析結果・手順・再生策 国内豪華列車(TWILIGHT EXPRESS 瑞風)

【第13回】 再生策の評価(予想)・発表準備

【第14回】 発表時相互評価準備・地域グループ毎リハーサル

【第15回】 全体まとめ 発表(期末レポート提出)

※授業の計画はあくまでも当初の予定であり、講師の都合・授業進捗によっては変更されることがある。